

史跡・名勝 飛鳥京跡苑池第8次調査
(飛鳥京跡第174次調査)
出土海老錠について

奈良県立橿原考古学研究所

平成28年7月13日

調査地 高市郡明日香村大字岡
調査原因 史跡・名勝 飛鳥京跡苑池保存整備活用事業
担当 調査部調査課 主任研究員 鈴木 一議
企画部資料課 指導研究員 奥山 誠義
要旨 史跡・名勝 飛鳥京跡苑池の水路の堆積土中から出土した飛鳥時代の海老錠（牡金具）の保存処理が終了した。

I. はじめに

橿原考古学研究所では、平成 22 年度より史跡・名勝 飛鳥京跡苑池保存整備活用事業に伴い、飛鳥京跡苑池の発掘調査を継続的にこなしている。

平成 25 年度に実施した史跡・名勝 飛鳥京跡苑池第 8 次調査（飛鳥京跡第 174 次調査）において、海老錠（牡金具）1 点が出土した。この度、出土海老錠に対する保存処理が終了した。

II. 概 要

海老錠出土位置 海老錠が出土した位置は、北池から北にのびる水路内で、北池北端から北へ約 40m の地点である。海老錠は、水路のほぼ中央部、水路内堆積層である灰色粘土層（飛鳥時代：水路改修後の堆積層）の下方から出土した。

海老錠の概要 出土した海老錠は、牡金具である。長さ約 9.5 cm（施錠部約 5.5 cm、弦受け部約 4.0 cm）、弦通し孔径 0.6～0.7 cm、重量 17.03 g を測る。表面の色調は黒色を呈する。弦受け部に線刻による簡略な装飾を施す。バネ部分の一部を欠損するが、全体に良好な状態を保っている。

海老錠の自然科学分析 海老錠に対する自然科学分析の結果、材質は鉄であり、表面に漆が塗られていることが明らかとなった。また、製作技法は、鍛造とみられる。

III. まとめ

飛鳥時代の海老錠牡金具の出土例は、これまで野々上遺跡（大阪府羽曳野市／7 世紀中頃）、飛鳥池遺跡（奈良県高市郡明日香村／7 世紀後半）の 2 例しか知られておらず、今回の出土が 3 例目となる。なお、飛鳥時代の海老錠牡金具の出土例には、野々上遺跡（同上）、飛鳥池遺跡（奈良県高市郡明日香村／7 世紀後半）、飛鳥京跡（奈良県高市郡明日香村／7 世紀末）の例が知られる。

今回の例は、これまでの出土例に比べ、非常に遺存状態が良好であり、本来の状態をよくとどめている。海老錠は、飛鳥時代に日本に伝えられたと考えられており、今回の例は、導入期の海老錠の形態を知る上で貴重な資料といえる。

奈良時代以降の海老錠の出土例は、平城宮・京跡を中心に、各地の官衙遺跡や寺院遺跡、集落遺跡などにあり、その数は鍵も含めて 100 例を超える。なお、正倉院宝物には、約 50 例の海老錠と鍵がある。そのうち、鉄製のものは約 30 例あり、いずれも表面に漆を塗っている。これまで、出土海老錠に対する自然科学分析の事例は少なかったが、今回の分析により、正倉院の海老錠と同様、表面に漆が塗られていることが明らかとなった。

最後に、出土海老錠の用途について、正倉院の海老錠と大きさを比較すると、概ね近い大きさであることがわかる。正倉院の海老錠は、厨子・櫃・箱などに付属している例がみられるため、今回出土した海老錠も、正倉院の海老錠と同様の用途が想定できよう。

今回発表した海老錠は、当研究所附属博物館で開催される「大和を掘る 3 4」（会期：平成 28 年 7 月 16 日（土）～9 月 4 日（日））で展示されます。

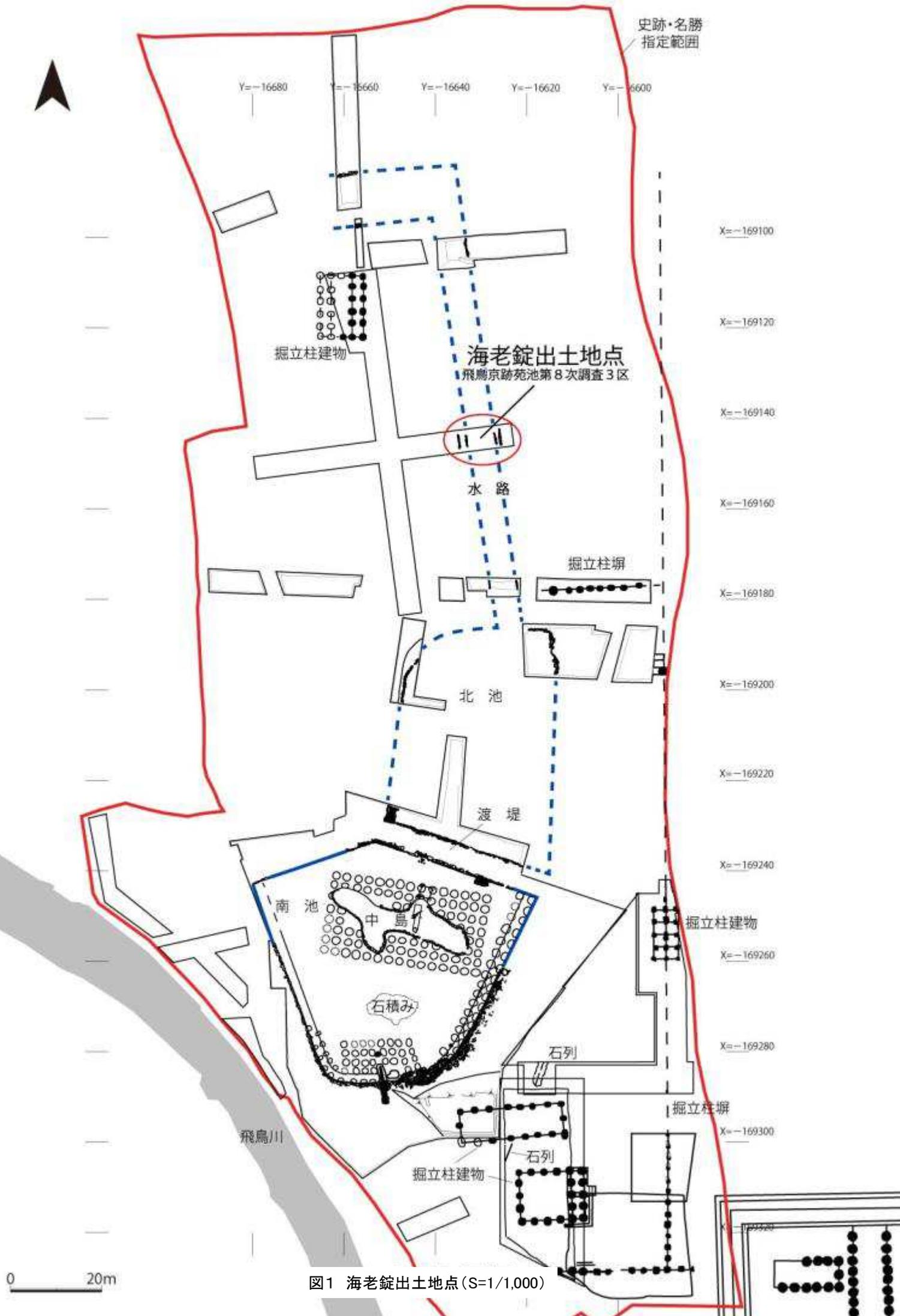


图1 海老錠出土地点(S=1/1,000)



写真1 史跡・名勝飛鳥京跡苑池第8次調査3区水路出土海老錠(牡金具)



写真2 史跡・名勝飛鳥京跡苑池第8次調査3区検出水路全景(南から)



写真3 出土海老錠(牡金具:写真左)と飛鳥京跡第15次調査出土海老錠(牝金具:写真右)



写真4 出土海老錠(牡金具:写真下)と飛鳥京跡第15次調査出土海老錠(牝金具:写真上)

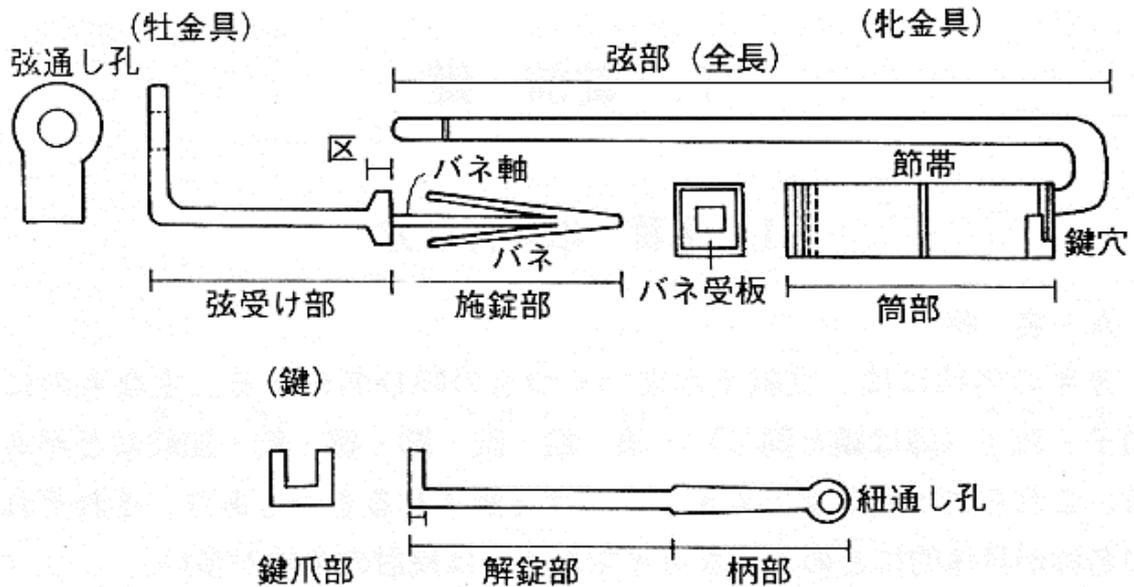


図2 出土海老錠の各部計測値

海老錠と鍵の構造と各部名称(参考)

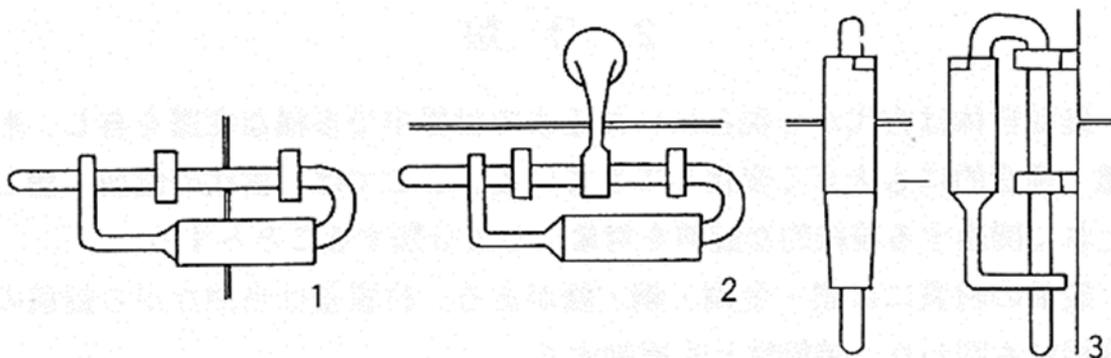
出典: 合田芳正1998『古代の鍵』考古学ライブラリー66 ニュー・サイエンス社

参考



海老錠の施錠模式図(参考)

出典: 合田芳正1998『古代の鍵』考古学ライブラリー66 ニュー・サイエンス社



(1: 扉の場合 2・3: 櫃の場合)

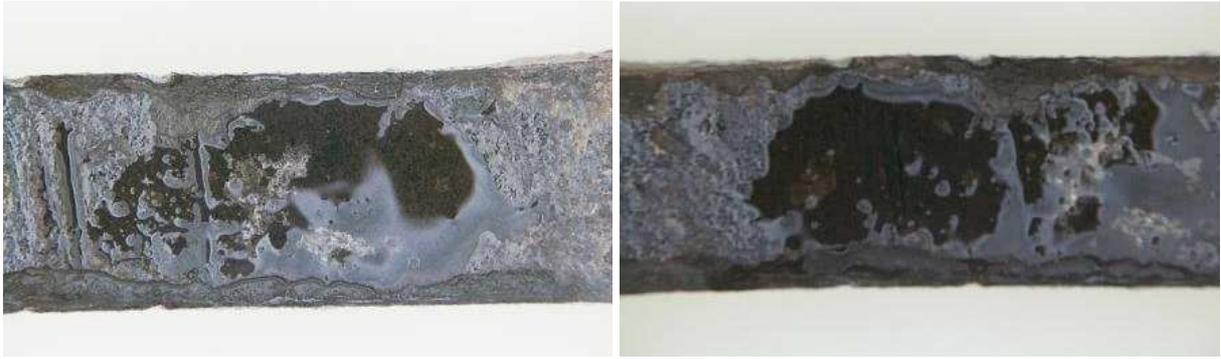


写真5 海老錠の塗膜状物質

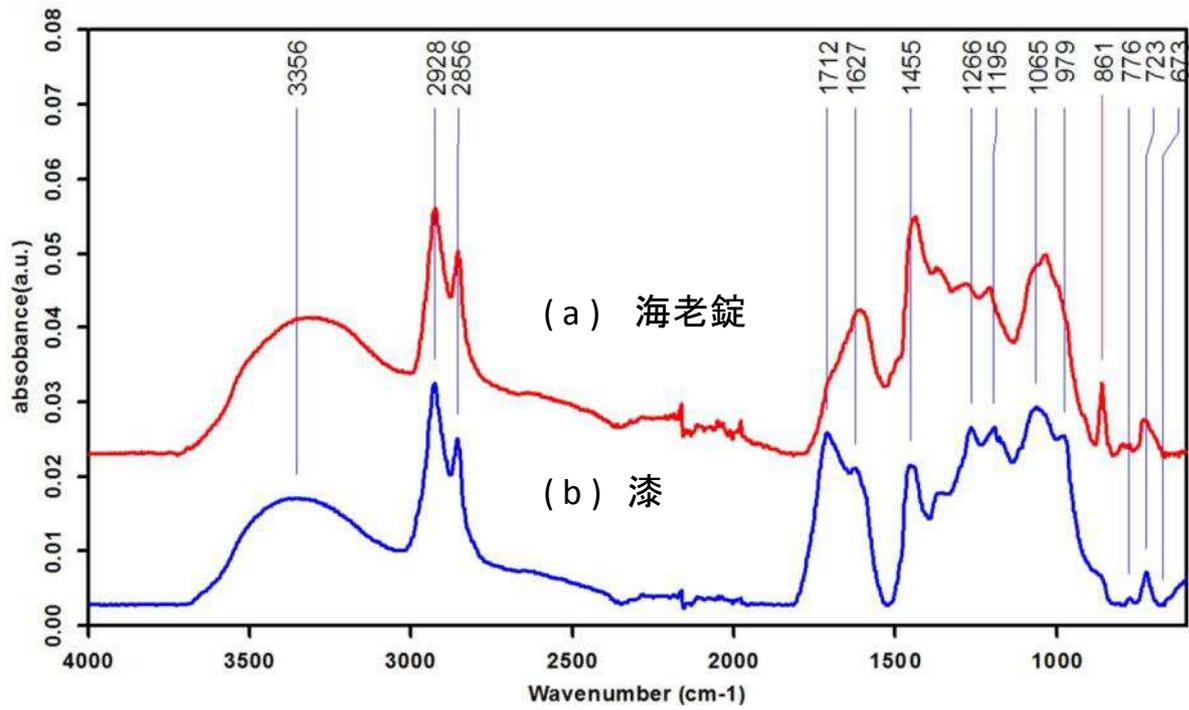


図3 塗膜状物質の赤外スペクトル

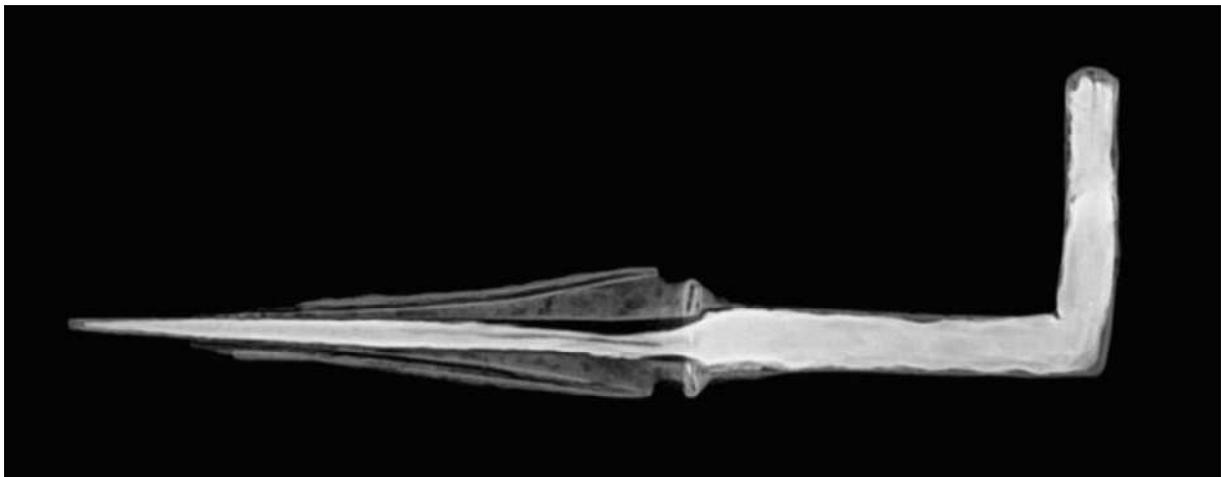


写真6 出土海老錠のX線写真

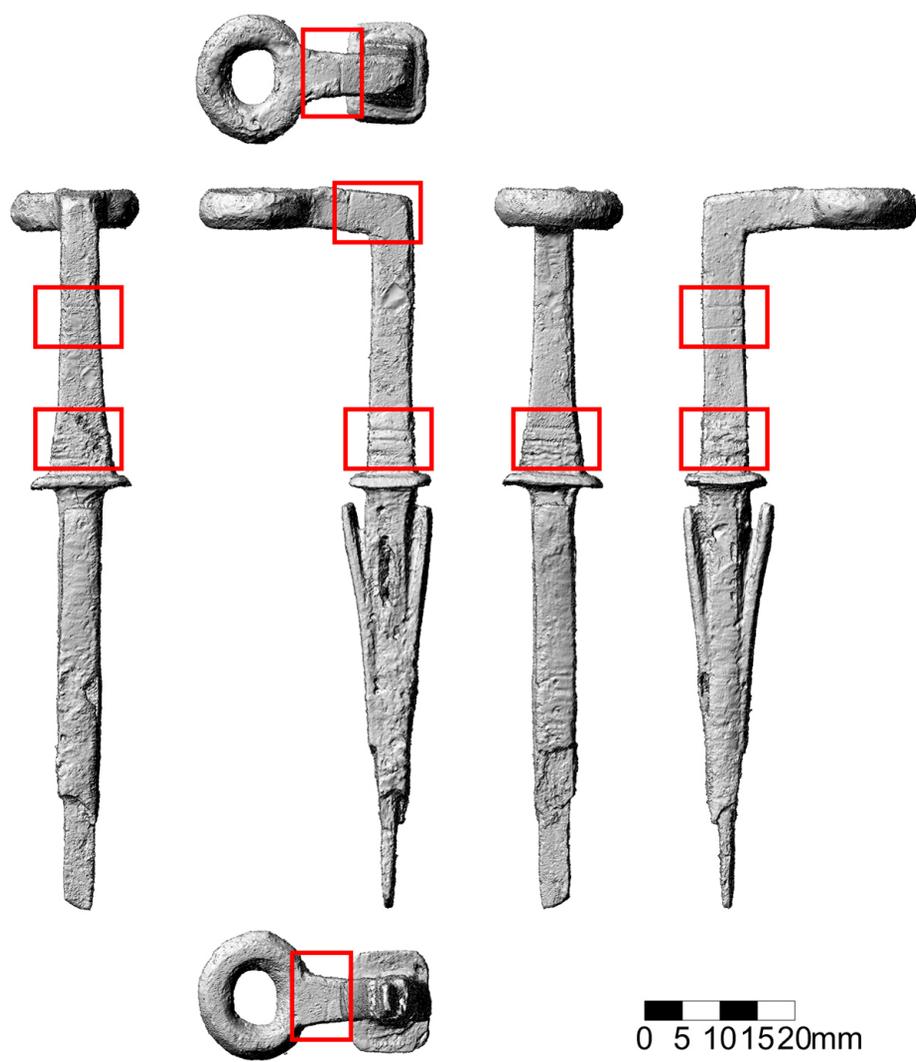


図4 海老錠3D画像

□は、線刻部分

表1 飛鳥時代の海老錠(牡金具)一覧

遺跡名	材質	長さ (cm)	時期	出土遺構	備考
野々上遺跡	鉄	—	7C中	30次/SX2最下層	弦通し孔・弦受け部の屈曲部分・区部の各破片
飛鳥池遺跡	鉄	—	7C後	—	バネ部のみ/*
飛鳥京跡苑池	鉄	9.5	7C後	8次/水路灰色粘土層	ほぼ完形/漆塗り/装飾あり/鍛造

文献 羽曳野市遺跡調査会1998『野々上VI—野々上遺跡出土遺物整理報告書—』 羽曳野市遺跡調査会

* 飛鳥池遺跡の事例については、奈良文化財研究所のご教示による。

表2 正倉院の海老錠一覧

倉番	名称	材質	長さ(cm)			備考	
			牝金具	牡金具	匙		
北倉2	金銅鑲子金具・匙	金銅	10.8*			18.0	赤漆文欄木御厨子付属/*牝・牡合計値
北倉180	鉄鑲子	鉄	○	○	○	○	赤漆小櫃第3号付属
北倉183	鉄鑲子	鉄	○	○	○	○	古櫃第28号付属
中倉143	鑲子	金銅	○	○	—	—	密陀彩絵箱第13号付属
中倉148	鑲子	金銅	○	○	○	○	朽木菱形木画箱第21号付属
南倉167	鑲子第1号	銀	10.4	6.5	7.9		
	鑲子第2号	金銅	15.6	9.5	10.5		
	鑲子第3号	金銅	16.2	9.1	10.1		バネ新補
	鑲子第4号	金銅	16.0	—	10.0		
	鑲子第5号	金銅	15.8	—	—		
	鑲子第6号	金銅	16.0	—	—		
	鑲子第7号	金銅	15.5	—	—		
	鑲子第8号	金銅	16.1	—	10.3		
	鑲子第9号	金銅	15.9	—	10.5		
	鑲子第10号	金銅	19.5	—	—		
	鑲子第11号	金銅	17.2	9.0	9.8		
	鑲子第12号	金銅	15.7	—	9.8		
	鑲子第13号	金銅	—	9.0	—		
	鑲子第14号	金銅	—	—	10.9		
	鑲子第15号	金銅	16.1	—	10.0		
	鑲子第16号	鉄	18.2	11.0	10.6		黒漆塗/「東寺」銘
	鑲子第17号	鉄	19.1	11.8	12.9		黒漆塗
	鑲子第18号	鉄	15.6	8.5	—		黒漆塗/「東寺」銘
	鑲子第19号	鉄	16.2	—	—		黒漆塗
	鑲子第20号	鉄	—	—	13.1		黒漆塗
	鑲子第21号	鉄	—	—	11.6		黒漆塗
	鑲子第22号	鉄	—	—	12.9		黒漆塗
	鑲子第23号	鉄	—	—	12.2		黒漆塗
	鑲子第24号	鉄	—	—	13.9		黒漆塗
	鑲子第25号	鉄	—	—	11.9		黒漆塗
	鑲子第26号	鉄	—	—	11.1		黒漆塗
	鑲子第27号	鉄	—	10.8	—		黒漆塗
	鑲子第28号	鉄	—	—	8.9		黒漆塗
	鑲子第29号	鉄	—	—	12.0		黒漆塗
	鑲子第30号	鉄	16.0	10.6	8.9		黒漆塗
	鑲子第31号	鉄	17.8	10.4	—		黒漆塗
	鑲子第32号	鉄	18.3	—	—		黒漆塗
	鑲子第33号	鉄	18.3	—	—		黒漆塗
	鑲子第34号	鉄	17.0	—	—		黒漆塗
	鑲子第35号	鉄	—	10.3	—		黒漆塗
	鑲子第36号	鉄	—	10.2	—		黒漆塗
	鑲子第37号	鉄	—	9.5	—		黒漆塗
	鑲子第38号	鉄	—	10.6	—		黒漆塗
	鑲子第39号	鉄	—	—	9.5		黒漆塗
	鑲子第40号	鉄	10.2	5.3	6.9		黒漆塗
鑲子第41号	鉄	10.2	—	—		黒漆塗	
鑲子第42号	鉄	10.8	5.3	—		黒漆塗	
鑲子第43号	鉄	—	—	12.5		黒漆塗	
南倉170	鑲子	鉄	○	○	○	○	赤漆櫃第2号付属

凡例 ○：資料は存在するが長さ不明 —：資料伝世せず

文献 正倉院事務所編1994～97『正倉院宝物1・2・5・9』北倉I・II、中倉II、南倉III 毎日新聞社